

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

JSiSE

発行日 2006年9月30日
発行所 教育システム情報学会
発行者 伊藤 紘二
〒533-8533
大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学内
TEL06-6990-3638 FAX06-6990-3638
<http://www.jsise.org/>
E-mail: secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.144

第31回全国大会報告

「 教育システム情報学会第31回全国大会を終えて 」

実行委員長 家本 修 (大阪経済大学)

平成18年8月23日(水)から25日(金)までの3日間、大阪経済大学大隅キャンパスで第31回全国大会を開催させていただきました。猛暑の中、290件を超える多くの発表と524名(実参加数:延べ参加数1250名推計)に至る多くのご参加を得て盛大な全国大会を開催することができました。これもひとえに会員の皆様にご支援をいただいたもの感謝申し上げます。また、大会を盛り上げていただきました伊藤紘二会長をはじめ理事・評議委員の皆様には厚く御礼申し上げます。また、活発な論議ができて大変ご好評でございましたワークショップや企画セッションの企画運営いただきました各委員会の皆様にも御礼申し上げます。企業展示会にご参加いただきました各社のおかげで大会を盛り上げる事ができたことに御礼申し上げます。

また、本大会の実施にあたりまして関西支部の皆様には多くのご支援ご努力をいただきましたことを御礼とともども報告させていただきます。さらに、この多忙なとき、また休暇中にもかかわらず大阪経済大学の教職員、学生スタッフの強いお力は本大会を成功に導いたものと深く感謝する次第です。

次ページ▼



もくじ

第31回全国大会報告	1	第2回研究会報告	6
国際会議案内	3	新入会員の紹介	8
第4回研究会開催案内	4	学会誌「特集号」論文募集ご案内	9
第5回研究会開催案内	5	学生・院生研究発表会お知らせ	10

【大会開催内容】

「知の創成と人材育成のための情報技術基盤」をテーマに基調講演と2つの特別講演、2つのパネル討論、4つのワークショップ、6つの企画セッション、22分野の一般講演、ポスター・デモセッションの計287件の講演・研究発表が15会場に分かれて実施いたしました。また同時開催イベントとして、25社に上る教育システム関係の御企業に企業展示会にご参加いただきました。

また、本大会は次世代に向けて新たな発展と教育システムのあり方をめぐり「教育システム情報学のアイデンティティと未来技術」をテーマにパネル討論がおこなわれ諸先生方の活発な討議がおこなわれました。また、最終日におこなわれましたパネル討論Ⅱでは「知の創成と人材育成」をテーマに新たな人材育成のあり方にも論議が展開されました。

本年度は、24日には特別講演として文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官の永井克昇氏が「初等中等教育における情報教育推進政策」というテーマでわが国の方向を示されました。さらに25日には、経済産業省商務情報政策局情報処理振興課長の鍛冶克彦氏が「IT革命と人材育成(イノベーション、OSS、IT人材の育成)」をテーマにご講演を頂き、今後の方向性をお示しいただきました。

本大会は、特にe-learningやコンテンツ、その有用性、情報教育に至る発表が多くあり、本学会の研究力や情報発信力が顕著に示されたことを報告させていただきます。



特別講演Ⅰ

最後になりましたが、本大会に向けて多くの関連学会・組織・企業様からご後援・ご協賛を賜りました。また、25社の企業展示・23社の広告を頂戴しましたことを重ね御礼と報告をさせていただきます。

ご参加いただきました方々には、行き届かないところが多々あったかと存じますが、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

末尾ながら、次年度開催されます信州大学での第32回全国大会がより充実した大会になることを祈念いたしまして、第31回全国大会実施報告とさせていただきます。



研究奨励賞 表彰式



企業展示会場

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡ください。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

新規情報 4 件

ITHET 2007 : 8th International Conference on Information Technology Based Higher Education and Training

開催日程 : 2007年7月10-13日

論文応募締切 : 2007年2月1日

開催地 : KKR Hotel Kumamoto, Japan

U R L : <http://ithet07.coe.kumamoto-u.ac.jp/>

ED-MEDIA 2007: World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications

開催日程 : 2007年6月25-29日

主催 : Association for the Advancement of Computing in Education (AACE)

論文応募締切 : 2006年12月19日

開催地 : Vancouver, BC Canada

U R L : <http://www.aace.org/conf/edmedia/call.htm>

WWW2007: The Sixteenth International World Wide Web Conference

開催日程 : 2007年5月8-12日

主催 : The International World Wide Web Conference Committee (IW3C2)

論文応募締切 : 2006年11月20日

開催地 : Banff, Alberta, Canada

U R L : <http://www2007.org/>

WEBIST-2007: International Conference on Web Information Systems and Technologies

開催日程 : 2007年3月3日-6日

主催 : IEEE

論文応募締切 : 2006年10月30日

開催地 : Barcelona, Spain

U R L : <http://www.webist.org/>

再掲情報 2 件

WBE 2007: The Sixth IASTED International Conference on WEB-BASED EDUCATION

開催日程 : 2007年3月14-16日

主催 : The International Association of Science and Technology for Development (IASTED)

論文応募締切 : 2006年10月15日

開催地 : Chamonix, France

U R L : <http://www.iasted.org/conferences/home-557.html>

SITE 2007: the 18th annual conference of the Society for Information Technology and Teacher Education

開催日程 : 2007年3月26-30日

主催 : Association for the Advancement of Computing in Education (AACE)

論文応募締切 : 2006年10月25日

開催地 : San Antonio, Texas, USA

U R L : <http://site.aace.org/conf/call.htm>

国際会議案内文責 曾我 真人 (和歌山大学)

E-mail : soga@sys.wakayama-u.ac.jp

2006 年度第4回研究会 講演募集！

担当：研究会委員会

黒瀬能幸，磯本征雄，

「生涯学習と高等教育」をテーマにした研究会を開催いたします。講演の募集をいたしております。

テーマ： 生涯学習と高等教育／その他

開催日： 2006年11月25日（土）

会場： 岐阜聖徳学園大学 経済情報学部

趣 旨：

e-Learning などによる教育が盛んになることで、今後の教育の場は過去概念を越え大学のキャンパスの外へと大きく広がると予想されます。「生涯学習と高等教育」を主題にしたこの研究会では、大学のカリキュラムに沿った教育だけでなく、既に大学や学校を卒業した成人を対象とした教育をも含む内容の研究発表の場とすることを想定しております。これら以外の内容であってもご応募に応じます。ご参加・講演応募をお待ちしております。

【発表表申し込み方法】

以下の事項を電子メールでお送りください。形式は自由です。

1. 発表タイトル
2. 発表者・所属（登壇者に○）
3. 発表概要（100字程度）
4. 連絡先住所・氏名・電話番号・電子メールアドレス
5. 送付先：〒500-8288 岐阜市中鶉1丁目38
岐阜聖徳学園大学 経済情報学部 磯本征雄 (yisomoto@gifu.shotoku.ac.jp)
6. 申し込み締め切り日： 10月4日（水）

【講演原稿の原稿執筆要領及び提出方法】

1. 原稿はA4用紙で、2枚以上8枚以下の偶数枚でお願いします。
2. 原稿は、学会誌巻末に掲載してある学会誌原稿執筆要領に準拠してください。
3. 頁番号は、鉛筆で原稿の左上に鉛筆で記入してください。
4. 印刷原稿を送付してください。
5. 原稿送付先：〒500-8288 岐阜市中鶉1丁目38
岐阜聖徳学園大学 経済情報学部 磯本征雄
6. 原稿締め切り日： 10月25日（水）

【お問い合わせ先】

磯本征雄

岐阜聖徳学園大学 経済情報学部 大学院経済情報研究科

〒500-8288 岐阜市中鶉1丁目38 TEL 058-278-0711（代表） Fax 058-278-0718

E-mail：E-mail yisomoto@gifu.shotoku.ac.jp

2006 年度第5回研究会 講演募集

担当:研究会委員会

柏原 昭博/佐々木 整

テーマ:モバイル・ユビキタス学習環境/一般

開催日:2007年1月27日(土)

会場:八王子学園都市センター

〒192 八王子市旭町9-1 八王子スクウェアビル 12階

<http://www.hachiojibunka.or.jp/gakuen/gakuenn-top.htm>

主旨:

インターネットをはじめとする情報通信技術は、近年目覚ましい勢いで進歩しており、教育や学習環境に大きな影響を与え始めています。特に、様々な場所に情報を埋め込むとともに、どこからでも情報にアクセス可能とするユビキタス・モバイル技術は、現在の教育や学習のあり方そのものに変革をもたらす可能性を秘めており、非常に注目されています。今回の教育システム情報学会研究会では、こうした背景を踏まえて、モバイル・ユビキタス技術を利用した教育実践や、最先端の教育・学習支援システム開発の発表を予定しております。ご講演の応募、ご参加をお待ちしております!

【研究会の連続開催】

本研究会は、電子情報通信学会教育工学研究会(1月26日開催)と連続して開催されます。合わせてご参加いただきますよう、宜しくお願いいたします。

電子情報通信学会教育工学研究会

(<http://www.ieice.org/ken/program/index.php?tgid=ET&lang=jpn>)

テーマ:オープンソースソフトウェアの教育利用/一般

開催日:2007年1月26日(金)

【発表申込み】

※発表申込み締切:2006年10月27日(金)

以下の事項を電子メールにてお送りください。

1. 発表タイトル
2. 発表者・所属(登壇者に○)
3. 発表概要(100字程度)
4. 連絡先住所・氏名・電子メールアドレス
5. その他(要望など)
6. 申込先:電気通信大学 柏原昭博
kashihara@ice.uec.ac.jp

【講演原稿の提出】

※発表原稿提出締切:2006年12月22日(金)

1. 原稿はA4用紙で、2枚以上8枚以下の偶数枚でお願いします。
2. 原稿は、学会誌巻末に掲載している学会誌原稿執筆要項に準拠してください。
3. 原稿送付先

■郵便で送付される場合

〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8

大阪経済大学内

教育システム情報学会事務局

■電子メールで送付される場合

e-mail: secretariat@jsise.org

(注)PDF形式にて送信下さい

【問い合わせ先】

柏原昭博

電気通信大学

tel: 042-443-5278

e-mail: kashihara@ice.uec.ac.jp

「探求学習とハイパーメディア」

担当：研究会委員会
渡辺成良／野崎浩成／不破 泰

探求学習とハイパーメディアメインテーマに、信州大学において研究会を開きました。7 月という暑くまた多忙な時期でしたが、下記の通り e-Learning を活用した様々な取組やその効果を高めるための様々な工夫を中心に、12 件の発表を頂きました。

発表会場が IT 大学院を実施している信州大学であったこともあり、同大学院関連の発表も数件あり、同大学院で実際に e-Learning で遠隔受講をしている学生達も多く参加して討論に参加するなど、活発な研究会となりました。

日時：2006 年 7 月 8 日 (土) 10:00～17:35

会場：信州大学

- [1] 学習者自身による e-Learning 教材のグループ開発法を活用した学習の転移促進のための授業設計モデル

【著者】片瀬拓弥, 山本洋雄, 六浦光一, 半田志郎, 大下真二郎(信州大学)

【概要】学習者の将来に役立つ授業とは、学習した知識や技能が後々他の学習領域に応用できるものである。この概念を認知科学では学習の転移という。本研究では、主導的概念として古代ローマの哲学者セネカの視点を導入し、e-Learning 教材を学習者自身がグループ開発することにより、学習の転移を促進する授業設計モデルを構築・検証する。本モデルは、「履修期間終了までの開発プロセスの繰り返し」中の「リハーサルによる教授意図達成判断の繰り返し」という 2 重ループ構造を利用する。最終的に本モデルに基づく授業を実施後、学習者のアンケート結果を構造方程式モデリングにより因果分析したところ、学習の転移に対する本モデルの有効性が示唆された。

- [2] 自由参加からはじめたブレンディッド e-Learning 教材の運用経験

【著者】板谷道信 (川崎医療短期大学)

【概要】従来型講義科目である医用電気電子工学の教材を、ブレンディッド e-Learning システム CEAS 用に修正して 1 年間試験運用を行った。講義で配布する資料の他に新たに選択式問題と記述式問題を作成し、学生が自学自習できるようにした。前期は自由参加としたが、後期については平常成績に加えることとして学生の積極的な参加を促した。この 1 年間の運用経験について報告する。

- [3] 更新に追従する e-Learning 教材アノテーションシステム

【著者】國宗 永佳, 新村 正明, 不破 泰(信州大学)

【概要】e-Learning 教材は、マルチメディアを用いた効果的な教材開発が可能であり、必要に応じてその内容の更新が可能であるなど、書籍等と比べて優れた特徴を有している。一方で書籍では容易な書き込み(アノテーション)を行うためには、教材を紙に印刷する必要があり特徴を生かすことができない。本研究では Web 上で e-Learning 教材に対してアノテーションを行い、教材の更新にアノテーションの内容が追従するシステムを提案する。

- [4] 隠れた美を発掘するための発想転換とその表現技法の検討

【著者】高田伸彦 (金沢学院大学)

【概要】本学の情報デザイン学科は、2000 年に、情報デザイナーを育成するために、設立された学科である。しかし、近年、デッサン力をもった学生の入学者数が減少し、従来のデザイン学科の学生育成方法では、学科運営が難しくなっている。本学では、発足以来コンピュータをベースにした CG、アニメーションなどのカリキュラムを中心に教育を行ってきている。それらを基盤として、デッサンによる表現にかわり、デジタルカメラやソフトウェアツールを利用して対象物を把握する能力や創造力を磨くことを醸成するカリキュラムを構築することは意義のあることと考える。各大学の芸術論コースの主要内容である、「美とは何か」「芸術とは何か」という問題の伝統的な理解とデジタル表現の飛躍的な進展と普及により、美学論や芸術論もその守備範囲を変化させてきている。本論では、隠れた美の発掘とその表現に関する研究に関しての位置づけを明確にするために、美に関しての調査・分析を実施し、その後、作品の制作とその過程および成果に関してまとめたので、

ここに報告する。

- [5] 幼稚園・保育園におけるコンピュータ利用教育の現状－日本（愛知県）と中国との比較研究－

【著者】野崎浩成，高 錦梅，江島徹郎，梅田恭子（愛知教育大学）

【概要】本研究では，日本（愛知県）と中国（延辺地区，北京市・大連市）を対象に，幼稚園・保育園におけるコンピュータ利用教育の現状と意識を調査し，日中両国間での比較を行った。その結果，園児が利用できるコンピュータを導入している園は，日本は5.3%，中国は34.5%であったこと，コンピュータは「子どもの知的発達には有効」という回答は，日本よりも中国の方が有意に高いこと（ $t(168)=2.16, p<.05$ ），一方で，コンピュータを「利用する必要はない」については，日本の方が有意に高いこと（ $t(165)=2.23, p<.05$ ），などが示された。これらの結果から，園児のコンピュータ利用については，日本よりも中国の方が，肯定的な意見が強いことが明らかになった。

- [6] Web コンテンツを併用した音楽教育システム

【著者】荻原 尚，木川 裕（武蔵野学院大学），山下倫範（立正大学）

【概要】本研究では，音楽教育マルチメディア教材の概要と「音程」学習コンテンツの利用効果について報告する。

- [7] CMS 上の SCORM 対応教材による CG 基礎教育

【著者】松本 哲（京都情報大学院大学／京都コンピュータ学院／信州大学大学院）

【概要】講師自らが授業を撮影し，SCORM 対応のオンデマンドコンテンツを CMS（WebCT Vista）へ，学務時間割りシステム情報を基に Up Load 可能なシステムを開発・構築した。このシステムを利用した CG 基礎教育の実践報告を特に行う。また，この Up Load システムの30科目ほどのオンデマンド授業で利用された効果・問題点の実践報告を行う。

- [8] Web3D とデータベースを用いた教育システム

【著者】江見圭司（京都情報大学院／京都コンピュータ学院）

【概要】Web3D とデータベースをもちいた教育システムを作成した。ここでは天体現象の可視化を XML の DB で実装，もう一つは建築の可視化を RDB で実装した例を紹介して，2種類の異なる DB の特徴などと教育システムでの特徴を述べる。

- [9] 主体的学習におけるリフレクションの促進を目的とした知識発信支援システム

【著者】加茂下泰広，柏原昭博（電気通信大学）

【概要】主体的学習では，学んだ知識が不十分・不適切なまま学習を終えてしまうことがしばしば起こる。しかしながら，学習者がこうした知識の不完全さに自ら気づくことは困難である。本稿では，学んだ知識を発信することでこの課題の解決を試みる。知識発信では，他者に理解できる形で知識を表現しなくてはならず，この過程を通して学習者は自らの知識を異なる立場から見直す機会を得ることができる。一方，知識の表現を考慮に入れて知識を発信する作業は学習者にとって負担の大きい煩雑な作業といえる。

- [10] 社会人遠隔学習者に対する学生サポートについて－サポートの方法の模索とその効果－

【著者】右代美香，不破 泰，新村正明，國宗永佳（信州大学）

【概要】社会人を対象とした大学における遠隔教育においては，基本的に自学自習型の学習環境で学生は自主的にいつでもどこでも学ぶことが出来るが，学習のつまづき，学生の生活環境の変化等の理由で学習停滞が頻りに起こりやすいという問題もある。この学習停滞が長期化すると結果的に退学といった事になり，現在の通信教育学生の卒業率，達成率の低さに繋がっている。2002年度開講した信州大学インターネット大学院では，2002年度入学生の約6割が修了しており，また1割以上の学生がまだ修了を目指して学習を続けている。これは，単に Web 上に教材を並べただけではなく，学生のインタラクティブな学習サポート環境の整備と，学習状況から見て適宜行う個別の大学からの働きかけにより達成されたものである。本発表ではこれまでに行ってきた学生サポートについての現状を紹介するとともに，今後計画しているより幅広いサポート体制の整備について述べる。

- [11] オンラインテストシステムを用いた教育データ解析

【著者】緒形 亮，國宗永佳，新村正明，右代美香，不破 泰（信州大学）

【概要】本発表では，オンラインテストシステムの概要とこれを用いた教育データ解析について報告する。本システムでは，プログラミング能力を必要とせず，問題を用意するだけで様々な問題の形式のオンラインテストを作成することができる。また，作成した問題のライブラリ化によって，問題の再利用が容易となっている。さらに，本システムでテストの結果のログを解析し，その結果から受講者の評価やテストの品質評価を行える。これにより，受講者の学習効果の測定，テスト改良の指標を得ることができる。

[12]KNOPPIX を用いた協調作業支援サーバの構築

【著者】高橋文徳 (尚絅大学短期大学部), 師玉康成 (信州大学)

【概要】Linux ディストリビューションの一つである KNOPPIX は、多くの PC において CD 単体からの起動が可能である。これを基盤として、USB フラッシュメモリから起動する簡易型の協調作業支援サーバの構築を行った。サーバにはグループウェアがインストールされており、同一ネットワーク環境下にある PC であれば Web ブラウザ経由で利用することができる。また USB フラッシュメモリから起動させることで CD 以上に高速な処理ができる上に、サーバ利用者の作成データを保存することも可能である。



◆◇ 研究報告のお求めは ◇◆

研究報告書購入ご希望の方は、株式会社メデイ・イッシュまで、TEL (03-5805-1901), FAX (03-5805-1902) にお申し込みください。1部1,300円(送料共)です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読(購読料は送料込みで年間4,000円)をご希望の方はJSiSE 事務局TEL (06-6990-3638), Eメール (secretariat@jsise.org) までご連絡ください(年間6回)。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします。

(教育システム情報学会

研究会委員会担当/伊東幸宏)



新入会員の紹介

新入会員 (敬称略)

(会員 No.)	(氏 名)	(所 属 機 関)	(会員種別)
JSiSE-A0602550	皆川 雅章	札幌学院大学	正会員
JSiSE-A0602551	久野 寛之	北海道文教大学	正会員
JSiSE-A0602552	鹿毛 佳子	東京電力株式会社	正会員
JSiSE-A0602553	長谷川 健治	東京理科大学	準会員
JSiSE-A0602554	常盤 祐司	法政大学	正会員
JSiSE-A0602555	廣澤 晃一	東京農工大学	準会員
JSiSE-A0602556	近松 亮	岐阜聖徳学園大学	準会員
JSiSE-A0602557	手塚 正義	京都情報大学院大学	正会員
JSiSE-A0602558	水野 貴規		準会員
JSiSE-A0602559	石川 正敏	東京農工大学	正会員
JSiSE-A0602560	青垣 徳之	静岡大学	準会員
JSiSE-A0602561	伊藤 愛	九州工業大学	準会員
JSiSE-A0602562	丸山 裕輔	新潟大学	準会員
JSiSE-A0602563	小松崎 聖	東京理科大学	準会員
JSiSE-A0602564	竹内 豪	東京外国語大学	準会員
JSiSE-A0602565	宮本 晃太郎	日本アイ・ビー・エム株式会社	正会員
JSiSE-A0602566	大川 成夫	神奈川県立鶴見総合高校	正会員
JSiSE-A0602567	角田 正豊	沖縄工業高等専門学校	正会員
JSiSE-A0602568	安藤 明伸	宮城教育大学	準会員
JSiSE-A0602569	加納 寛子	山形大学	正会員
JSiSE-A0602570	上田 俊夫	株式会社ジャストシステム(北陸先端科学技術大学院大学)	準会員

2006年度新入会員 (2006年7月27日～2006年9月26日)

★★ 2007年10月発行号掲載 特集論文募集 ★★

学会誌編集委員会

テーマ：新しいメディア／デバイスを活用した学習支援環境

○主旨

近年のコンピュータとその周辺環境の技術発展に伴い、新しいメディアやデバイスを用いた学習支援環境が注目されつつあります。例えば、高度なグラフィックスやハプティックス、空間の共有、現実と仮想の合成技術などを利用して、スキル学習などを中心に、体験的な学習支援が可能となりつつあります。また、携帯電話や PDA などの携帯情報端末を用いたユビキタスを重視した学習支援環境も整備されつつあります。本特集では、このような新しいメディアやデバイスを活用した学習支援環境に関する論文を広く募集します。またこれらのデバイスを利用するコンテンツ開発に関する研究も歓迎いたします。

○対象分野

本論文特集は、新しいメディア／デバイスを活用した学習支援環境に関連する研究を広く募集致します。但し既存のメディア／デバイスに関連する研究であっても、新しい活用法を含むものであれば対象範囲とさせていただきます。

具体的なキーワードとしては次のようなものを挙げることはできますが、これらに限りません。

スキル学習、体験的学習、協調学習／グループ学習、CSCL、ILE、バーチャルリアリティ、ヒューマンインタフェース、高度なグラフィックス技術、音声言語処理、力覚提示デバイス、HMD、空間共有技術、現実と仮想の合成技術、センサ技術、シミュレーション環境、携帯電話、PDA、RFIDタグ、GPS、センサーネットワーク、デジタルペン、無線LAN、ブルートゥース、赤外線通信、WWW、インターネット、ハイパーメディア

○論文種別

原著論文、ショートノート、実践論文、実践速報を募集します。なお、査読の結果により、異なる種別での採録になることがあります。また、編集委員会の判断により、特集ではなく一般投稿論文としての採録とさせていただきます。

○投稿要領

一般の論文投稿規程に準じます。投稿に際しては、原稿の 1 ページ目および封筒に「新しいメディア／デバイスを活用した学習支援環境」と朱書きしてください。

○スケジュール

投稿締め切り：2007年3月8日

掲載予定：2007年10月1日発行の学会誌

○問い合わせ・原稿送付先

教育システム情報学会事務局

〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学内

E-mail: secretariat@jsise.org

「JSiSE 学生・院生研究発表会」発表者募集のお知らせ

教育システム情報学会
渉外・活性化委員会

記

- 日 時： 2007年3月3日(土) 午後1時半～午後5時半
- 場 所： 電気通信大学(東京都 調布市) IS棟2F 大会議室
- 内 容： 研究発表(10件程度)、ポスター発表(5件程度)
- 発表者資格： 大学生(短大生、高専4・5年生含む)
大学院生(マスターコース、ドクターコース在籍者)
* 社会人学生も参加可能です。
審査委員長 伊藤 紘二(東京理科大学 JSiSE 会長)

以上

発表申込方法

発表を希望する諸君は、電子メールにて

- 1) 氏名(ふりがな)、学校名、学部・学年、指導教員名(所属・氏名)、研究発表希望 or ポスター発表希望 の5項目をメール本文に記入し、
- 2) 発表題目を付けた発表要約をA4サイズ、1ページ程度にまとめて、添付書類として、送って下さい。

送 り 先：研究発表会実行委員長：帝京大学・渡辺博芳(hiro@ics.teikyo-u.ac.jp)
締め切り：2006年11月30日(木) 17:00 (厳守)

実行委員会で審査後、12月末までに結果を通知します。
発表時間は、研究発表1件につき20分の予定です。

発表原稿締め切りは2007年1月末の予定です。

不明な点は、研究発表会実行委員長：帝京大学・渡辺博芳(hiro@ics.teikyo-u.ac.jp)
まで問い合わせして下さい。